

銅輸入、内需回復を背景にプラス

自動車は生産、販売ともに大幅増加も住宅着工も増加

アルミ橋本健一郎氏リポート①



橋本健一郎氏

■国際概況

五月上旬は、

四月の米消費

者物価指数

(CPI)が市

場予想を大き

く超えインフ

レ懸念から長期金利先高感でドル高となり、メタル相場を圧迫するなどの悪材料もあったが、カッパーが世界最大産出国チリのBHP傘下鉱山労組がスト突入したとの報を好感しLME銅相場はUP、五月十五日時点で一万〇二二ドル(セツル)と月初価格より二六三ドルUPの前半締めとなった。

後半は続くストや米長期金利低下によるドル安などのプラス材料もあったが、中国原料価格抑制策や上海総合指数がこの日一週間ぶりの安値を付けたことを嫌気しLME銅相場はDOWN、五月末日現在、後半スタート価格から二〇七・五ドルDOWNの一万〇、一五九・五ドル。六月スタート建値は一一七万円。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)

一〇九・九五→一一〇・九七(円)

◆自動車生産台数

生産動態統計によると、四月の自動車生産台数は前年比六四・八%増の六七万九、七六一台。輸出は八〇・五%増。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、五月の自動車販売台数(軽除く)は前年比三〇・九%増の一九万三、七五〇台。

◆新設住宅着工件数

四月の新設住宅着工は、分譲住宅は減少したが、持家及び貸家が増加したため、全体で前年同月比七・一%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比〇・三%の増加となった。

新設住宅着工戸数は七万四、五二一戸で前年同月比七・一%増と、二カ月連続の増加。新設住宅着工床面積は六、〇六四千㎡で前年同月比五・三%増と、三カ月ぶりの増加。季節調整済年率換算値では八八三千戸で

前月比〇・三%増と、四カ月連続の増加。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が七・六%減の三万九、八五三t、スクラップが一四四・六%増の四万五、八二〇t。

輸入

輸入は電気銅が前年比三三・四%増の三、六七一t、スクラップ二四八・八%増の二万〇、〇九四t。

■前月の国内指標

四月伸縮品生産量は前月比三・二%減少の六万七、六六一トン。前年同月比では二二・二%増加し、四カ月連続増加。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比三・六%増の五万四、三〇〇tであった。

■国内概況まとめ

【自動車生産】

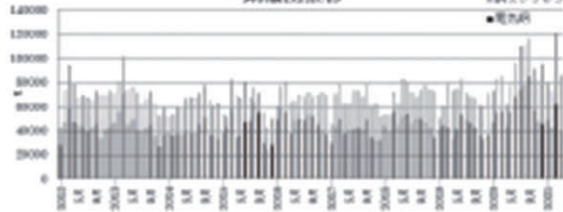
生産動態統計によると、四月の自動車生産台数は前年比六四・八%増の六七万九、七六一台。輸出は八〇・五%増。

【自動車販売】

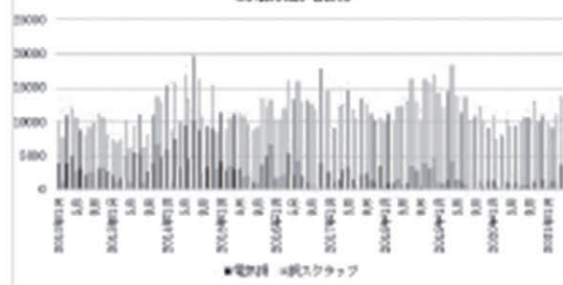
日本自動車販売協会連合会によると、五月の自動車販売台数(軽除く)は前年比三〇・九%増の一九万三、七五〇台。

このうち、乗用車三四・一%増、貨物一五・五%増、バス二・一%減。(六画へ続く)

銅輸出推移



電気銅輸入推移



LME銅・今月も米経済、景気対策と中国の景気動向がカギ 為替予想

(四国より続く)

【住宅着工戸数】

四月の新設住宅着工は、分譲住宅は減少したが、持家及び貸家が増加したため、全体で前年同月比七・一％の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比〇・三％の増加となった。

【伸銅品生産】

四月伸銅品生産量は前月比三・二％減少の六万七、六六トトン。前年同月比では一三・二％増加し、四カ月連続増加。黄銅板以外一三品目が前年同月実績を上回り、全般で回復基調が鮮明となった。

品種別で見ると、銅糸は前年同月比一・二％増と七カ月連続プラス。

同月では前回好調だった二〇一八年の実績を超えている。車載向けを含めて半導体ICの需要が好調である。ディスクリット(個別半導体)も回復してきて、自動車の新車生産台数増加に近いところで推移している。

一部の情報において、銅糸の需要に対し、国内の銅糸生産が追い付かず、逼迫しているとの観測があるが、銅糸の顧客からもそのような話は出ていないと否定した。

黄銅棒は前年同月比一九・二％増加。三カ月連続のプラス。

住宅設備関連の国内需要が緩やかに回復し、リフォーム向けの需要が伸びている。リモートワークや外出の手控えが長期化するに伴い、在宅時間が長くなり、自宅の修繕が増えていることが背景にあり、タッチレス水洗需要増加と設備用バルブも回復、自動車向けも好調。

【電線出荷】

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比三六％増の五万四、三〇〇t。

このうち国内三・一％増、輸出が三二・六％増。

【輸出】

電線輸出が七六％減の三万九、八五三t。銅スクラップが二四・六％増の四万五、八〇t。

【輸入】

電線銅が二三四％増の三、六七一t、スクラップが一四・八％増の一万〇、〇九四t。

【自動車】

四月の自動車生産が六四・八％増。五月国内販売台数が前年比三〇・九％増。

生産急増は半導体不足の影響はないとの認識、販売も大幅増。

今後生産、販売ともに増加していくが注視。

・四月伸銅品生産量は前月比三・二％減少の六万七、六六トトン。前年同月比では一三・二％増加し、四カ月連続増加。黄銅板以外一三品目が前年同月実績を上回り、全般で回復基調が鮮明となった。

・日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比三六％増の五万四、三〇〇t。

このうち国内三・一％増、輸出が三二・六％増。内外需が揃って増加するのは久しぶりのこと。内外ともにプラスが続くが注視。

・銅輸出は、スクラップが外需旺盛に伴い増加。

・銅輸入は電線銅が内需旺盛から急増、スクラップは内需回復から増加。

【スクラップ状況予想】

流通在庫は、銅建値が一八万円の高値安定から一転一三万円まで急落したタイミングで放出されたため、ある程度余裕あり。

需要面に関して、半導体不足に伴う自動車需要の減少は結果的になく、生産は急増傾向にある。しかし原料高値安定のため、メーカーはスポット買いに徹しており需給は安定気味。

【LME・為替予想】

今月も①米経済、景気対策との中国の景気動向に左右される。

①に関しては

バイデン米政権は二十八日、六兆ドル(約六五九兆円)規模の予算案を発表したことから米景気は回復傾向が続くのではないかと。

経済や国民生活における連邦政府の役割を拡大させる方針で、インフラや公衆衛生、教育への支出を大幅に増やす一方、企業や富裕層への増税を求める内容となっている。

②に関しては

中国政府による原材料高騰への取り締まり強化策や、五月の中国の公式購買担当者景況指数が製造業で五一・〇と前月の五一・一からわずかに低下、原材料高騰が影響しているものと思われることから、これ以上の高騰には心理的ブレーキがかかるのではないかと。

これらを踏まえた六月の銅価格は二万〇〇〇〇～二万二、〇〇〇ドル(セツル)との予想。

ドル円値は二〇七円～二一〇円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては二一五万～二二五万円程度と予測している。